

分析計測機器に初採用

島津製作所の主力機種に

難燃性を付与したセルロース繊維配合樹脂「グリーンチップ® CMF®」

株式会社巴川製紙所（本社：東京都中央区、代表取締役社長：井上善雄、以下 巴川製紙所）は、自然環境への配慮と空間環境の最適化に貢献する持続可能な社会の実現に向けたソリューション「グリーンチップ」ブランド製品の開発、拡充を進めています。

巴川製紙所とエフピー化成工業株式会社（本社：静岡県富士市、代表取締役社長：赤澤英郎、以下 エフピー化成）が共同開発したセルロース繊維配合樹脂「グリーンチップ® CMF®」の難燃性を付与した製品が、株式会社島津製作所（本社：京都府京都市、代表取締役社長：山本靖則、以下 島津製作所）の分析計測機器に本年11月より採用されました。分析計測機器に「グリーンチップ® CMF®」が採用されるのは初めてのことです。

「グリーンチップ® CMF®」は、ポリプロピレン樹脂に植物由来のセルロース繊維を配合しているため、石油由来樹脂の使用量を抑えられ、CO₂排出量削減につながるサステナブル素材です。また、セルロース繊維は強化材になるため成形製品を薄く、軽量にすることができます。しかし、分析装置などの電気機器は安全性の観点から燃えにくいことが望ましいため、難燃性を付与した製品を開発する必要性がありました。石油由来であるプラスチックや植物由来のセルロースは可燃性であるため、難燃性を付与することは困難で、島津製作所と巴川製紙所、エフピー化成は、一定の強度を保ちつつ難燃性を付与した製品を3年がかりで開発してきました。そしてこの度、島津製作所が11月下旬から出荷する液体クロマトグラフ「Nexeraシリーズ」の構成ユニット15種類に難燃性を付与した「グリーンチップ® CMF®」が採用されました。

巴川製紙所は、現在は、ポリプロピレン樹脂にセルロース繊維を配合した製品をラインナップしていますが、今後は、ポリエチレン、ポリ乳酸、ABS、ポリカーボネート、ゴム系素材等に配合することで機能向上や用途の拡充、様々な業界での採用を目指し、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。



「グリーンチップ® CMF®」が構成ユニットに採用された液体クロマトグラフ「Nexeraシリーズ」



「グリーンチップ® CMF®」

※GREEN CHIPロゴ、グリーンチップ®、CMF® は、株式会社巴川製紙所の登録商標です。

【お問い合わせ先】

株式会社巴川製紙所 iCasカンパニー企画室
〒104-8335 東京都中央区京橋2-1-3 京橋トラストタワー7階
TEL：03-3516-3405 E-mail：eisui_info@tomoegawa.co.jp
Website：https://www.tomoegawa.co.jp

